

デイリー・ジーザス・ニュース #232

イエスのエルサレムへの最後の旅

イエスと金持ちの若い支配者

MK 10.17-22 (並行テキスト : マタイ 19:16-22; ルカ 18:18-23)

17 イエスが出発されると、ある人が走り寄ってきて、ひざまずき、「良き先生、どうなさいましたか」と尋ねました。 ^{MT}良いこと 永遠の命を受け継ぐために、わたしは何をしなければならないのでしょうか？

18 「なぜ ^{MT}は私に何が良いか尋ね、 ^Mは私を良い人と呼ぶ？ イエスは答えました。

「神以外には誰も善良ではない。」 ^{MT}永遠の命に入りたいなら、戒めに従いなさい。」

男は尋ねた。「どれですか？」

19 ^M 「あなたは戒律を知っています。

「あなたは殺してはならない、

姦淫してはならない。

盗んではならない。

偽証してはならない。

詐欺行為をしてはならない。

「あなたの父と母を敬いなさい。」 (出エジプト記 20章 12-16節 ; 申命記 5章 16-20節)

^{MT} 「そして、 「隣人を自分自身のように愛しなさい。」 (レビ記 19.18)

20 彼は言いました。「先生、私は幼いころから、これらすべてのことを守ってきました。それでもまだ何が足りないのでしょうか。」

21 イエスは彼を見て、愛されました。 「あなたに欠けているものが一つあります」 彼は言った。

^{MT} 「完璧になりたいなら、 ^Mわたしはあなたに命じます。行って、持っているものをすべて売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つようになります。それから、わたしはあなたに命じます。来て、わたしに従い続けなさい。」

22 この言葉を聞いて、その人は顔を曇らせ、悲しんで立ち去った。彼は多くの富を持っていたからである。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マールク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**は**イエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

デイリー・ジーザス・ニュース #232

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムへの道のどこか
タイムライン	3月（38月）
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教
	C. イエスのエルサレムへの最後の旅
タイトル	10. イエスと金持ちの若い支配者

コメント：

エルサレムへのイエスの旅の最後の部分を構成する、イエスの一連の出会いと教えは、イエスの生涯を学ぶ者たちを、イエスの地上での生涯のクライマックスである受難週、復活、そして昇天に至るまでの復活後の40日間の宣教活動に備えさせる単位として機能します。

今後の朗読には、金持ちの若い支配者、大地主のたとえ話、イエスの死と復活に関する3度目の予言、使徒たちの間で誰が一番偉いかという論争、盲目のバルティマイとその仲間の癒し、ザアカイの救い、タラントのたとえ話、そしてベタニアでマリアがイエスの足に油を塗ったことなどが含まれます。これらはイエスの宣教活動の中で最もよく知られた出来事の一つです。これから見ていくように、これらは受難週とそれに続く栄光への完璧な前奏曲となっています。

裕福な若い支配者とイエスの出会いの物語は有名です。それは、イエスを悲しみのうちに拒絶した一人の男の物語です。福音書の物語の中で、この物語は、国民全体がイエスを拒絶した様子を霊的にたとえ話として表現しています。これは福音書の中で最も感動的な場面の一つです。朗読の際にマタイによる福音書のID（上付き文字）に注目すると、彼がこの出会いについて特に深い洞察を持っていたことが分かります。

ある男が永遠の命の確信を得ようとイエスのもとに来ました。当時の多くの福音伝道者は「イエスを信じれば、それでいい」とすぐに言うでしょう。イエスはそうしませんでした。マルコは、イエスがこの若者に非常に難しい命令を与え、その命令によって彼が主から離れていくことになった時、イエスがこの若者を愛しておられたことを指摘しています。なぜイエスはこの男にそれほど厳しかったのでしょうか。

実のところ、危険な状況から「救われる」前に、私たちは自分の状況の深刻さを理解しなければなりません。罪の危険から救われるためには、自分の罪深さがどれほど深く、どれほど広範囲に及ぶかを理解しなければなりません。これがこの若者の問題の核心でした。彼は自分が赦しを必要とする罪人ではなく、自分自身が義人であると考えていたのです。

イエスが「善」という言葉を問題視していることに注目してください。イエスはその男に「**なぜ私を『善』と呼ぶのですか**」と尋ね、そして「**神以外に善なる者はいない**」という重要な点を指摘しました。十戒に

デイリー・ジーザス・ニュース #232

始まる律法の神の目的の一つは、律法に従おうとする人々が、律法に従わないことを通して、自分たちがどれほど罪深いかを理解できるようにすることでした。

「隣人を自分自身のように愛しなさい」という根本原則に要約された第5戒から第9戒を引用したとき、この男は若い頃からこれらすべてを守ってきたと主張しました。これは、この男が自分の義について自己欺瞞していたことの明白な証拠でした。彼は表面的には戒めを守っていたかもしれませんが、自分の内面の態度が戒めの精神に反していることに気づいていませんでした。彼は傲慢な態度によって神に対して「死んで」いたにもかかわらず、そのことに気づいていなかったのです。

イエスは戒律のリストの中で10番目の戒律について触れませんでした。「むさぼってはならない」。この男は自分の富をむさぼっていました。彼はそれを神のものと考えず、自分のものと考えていました。彼の命は神との愛の関係ではなく、自分の所有物にありました。だからこそ彼は律法を完全に守っていると主張したのです。それはイエスの罪のない完全さに他なりません。しかし、彼は空虚で、自分の人生に何かが欠けていることを感じていました。

すべてを売り払い、貧しい人々に施し、イエスに従うようにというイエスの戒めは、自分は完璧だと思っていた男に貪欲の罪を暴く見事な方法でした。彼は裕福だったため、心の宝を手放すことなど考えられませんでした。戒めに従わずにイエスを拒絶した経験は、この若者を力強く、しかし愛に満ちた方法で、自らの罪深さと向き合わせました。この出会いを終えた男は、拒絶したばかりの救い主をどれほど必要としていたかを深く認識するようになりました。

もしイエスがその男の罪を明らかにしなかったなら、彼は現実を否定する誤った考えの中に放置されていたでしょう。それは愛ある行いとは言えないでしょう。イエスは若者に自分の罪を悟らせ、それと向き合うよう促すことで、将来の悔い改めと真の救いの可能性を彼に示していたのです。イエスの厳しい愛こそが、真の愛だったのです。

応用：

永遠の命は、信仰によって神との正しい関係を持つ人々への、神からの無償の賜物です。神との正しい関係は、そもそも私たちが神と正しい関係を持っていないことに初めて気づいたときにのみ築かれます。私たちは皆、神に敵対する罪人です。真に、神以外に善なる者はいません。自分自身が善良でない人々こそ、イエスを救い主、主として切実に必要としているのです。

この出会いは、イエスが永遠の命を、ご自身との正しい関係を保った者以外には、決して商品として差し出さなかったことを、身の毛もよだつ思いで思い起こさせます。自分の罪を自覚しておらず、砕かれ悔いる心で神のもとへ立ち返ろうとする意志を持たない者に、永遠の命を無償の贈り物として差し出す権利は私たちにはありません。恵みは無償ですが、決して安くはありません。金持ちの若い支配者に対するイエスの愛ある応答は、私たちの個人的な証しにとって重要な模範です。

の目から見た自分自身の真の「善良さ」の欠如を、どのように受け入れてきましたか？

の善良さと恵みに応答するのでしょうか？